

令和2年度自己評価結果

学校法人 佐藤学園
けやき認定こども園

1、本園の教育・保育目標

当園では、人間の正しい生き方を追求しつつ、すべての園児が正直、礼儀を重んじ、規律を正し、誰からも愛される人間味のある要素を身に付けさせ、自然の中でのびのびと育成し、心身を鍛え、個性豊かな想像力を養うべく次の教育方針を園の姿勢とする。

1、からだの丈夫な子の育成

戸外遊びやストレッチ、マラソン等、身体を動かすこと好きになる子どもを育てます

2、自主的に何でも成し遂げる子の育成

挨拶や手伝い、片付けや身の回りの整理整頓など、自分から行える子どもを育てます

3、個性、想像力豊かで知的感覚に富む子の育成

自分の思いや、想像を形にしていくことの楽しさを感じられる子どもを育てます

4、集団生活の中で友達と仲良くできる子の育成

乳幼児期は、遊びの中からたくさんの学びがあります。自然豊かな環境の中で友達を思う気持ちや遊びを生み出し発展させる力を育てます

5、ゆびざん指導の実施

人は生涯、数に関わって生活していきます。ゆびざんを通して、数字に親しめる子どもを育てます

又、週1回のえいごで遊ぶの時間を通して、世界の人と友達になることを楽しみにできるような子どもを育てます

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

新型コロナウイルスの感染拡大が不安な中での保育になるが、乳児、園児、保護者の安全を第一に考え、感染対策を取り入れながら、日々の保育にあたりたい。
また、正確な情報に基づき、保護者理解のもと、子ども達の園生活が実り多きものとなるよう最善を尽くしたい。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
①教育、保育、理念、内容	園の方針を理解し、職務に就く事ができた。子どもをひとりの人としてその存在を尊重し接する事ができた。
②園の職務	職員間の情報は、両スタッフで連携が図れた。 個人情報に考慮して、その責任を果たした。
③行事について	園が従来から続けてきた行事について、その意味を理解し子どもの健やかな育ちに繋がるよう工夫した。 行事までの過程を大切に考えて、保育するよう心掛けた。

④職員の資質・保育の質の向上	コロナ禍の為、外部研修がなかなか難しい状況であったが、ZOOMを利用した研修会に参加した。又、振り返りを含めた不足点を話し合う機会を増やしていきたい。
⑤地域の子育て支援	地域の子育て支援に対する園の役割を理解した上で、園庭開放や未就園児教室を進めてきたが、1年の半分は中止にする結果となってしまった。
⑥衛生管理及び保健管理	感染対策を、徹底して行った。おもちゃや手すりなどの消毒回数を増やした。健康観察カードを取り入れ、子どもの些細な変化に対応できるよう努めた。
⑦食育の推進	畑の活動では、楽しく種まきや収穫が行えるよう工夫した。こだわりのある給食提供を行い、楽しい雰囲気ですごせるようにした。調理スタッフとも栄養について話してもらうなど、関わりを持つことができた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は、新型コロナウイルスに翻弄された一年であった。4月の入園式を6月に変更したが、自粛期間中、自分達に何ができるのかを考え、園内外の清掃や教材準備に力を注いだ。保育部分の預かり児童は一定数いたので、感染対策をとりながら保育にあたった。各家庭に家庭で楽しめるような手作りの教材を郵送、配布、動画配信も行ったが、その準備を職員は快く引き受け、チームとなって対応できた。

今後も、感染対策を徹底しながらの保育になることが予想されるので、職員の健康管理、園児、保護者ともに、十分に気を付けていきたい。

又、園行事を縮小せざるを得ない状況下にある為、保護者の理解の下で、出来る限りのことを実行したいと思っている。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
職員のより一層の資質向上	職員の資質向上、子育て支援への取り組みに対して、ZOOMを利用するなどして、園内研修を進めてたい。
教育・保育内容	未満児クラスの子ども達へは、信頼関係を深める為にも触れ合い遊びを積極的に取り入れていく。幼児クラスにおいては、自らが意欲的に参加できるような環境を整えながらも、本児の小さな成功体験を重ねていけるよう、職員からの言葉掛けを意識していく。
衛生管理及び保健管理	しばらくコロナ感染症への安全対策が求められると思うので、手洗い場の増設や消毒回数などの見直しを行う。
食育の推進	低年齢児も畑の活動に参加しやすくなるよう、異年齢での活動とうまく繋げていきたい。